

## 令和3年度 職業教育プログラムの開発・実践イメージ等について

### 1 主題設定のイメージ

#### 【普通科系高校】

#### (1) 「職業発見・自己開発プログラム」の開発イメージ

- ・外部委員（有識者や企業等）やコーディネーターを交えた開発チームの設置
- ・6分野（農業、工業、商業、家庭・福祉、起業、事業承継）から講師を招聘
- プログラム開発例
  - ・職業適性検査で自己の特性を知り、企業調べやインターンで地元企業を学ぶ
  - ・協力企業のHP作成等を体験し、企業等の魅力のPR方法を学ぶ

#### (2) 「起業・事業承継研究プログラム」の開発イメージ

- ・外部委員（有識者や企業等）やコーディネーターを交えた開発チームの設置
- ・6分野（農業、工業、商業、家庭・福祉、起業、事業承継）から講師を招聘
- プログラム開発例
  - ・「起業家教育カリキュラム」を参考に、Y-NEXTでの集団発表までを学ぶ
  - ・やまなし産業支援機構等と協働し、事業承継が進みにくい背景を学ぶ

#### 【職業科系高校】

#### (3) 「革新技術実践プログラム」の開発イメージ

- ・工業系6校で、外部講師（アドバイザー）の支援を受けながら、年間を通じて先端分野の課題研究を実施
- プログラム開発例
  - ・VR技術を用いて、遠隔地での工業製品や農産物の品質管理の方法を研究
  - ・ドローン技術を学び、高所での修理作業や部品輸送等のあり方を研究

#### (4) 「異業種理解プログラム」の開発イメージ

- ・5系列の学校（農業、工業、商業、家庭・福祉、普通科系）で、専門とする系列以外の4系列について外部講師を招聘し、職業講話等を実施
- プログラム開発例
  - ・農業科生徒が、六次産業化を見据えてSNSを活用し販路の拡充策を探る
  - ・商業科生徒が、5Gを学びスマホ等での新たな宣伝・広報のあり方を探る

### 2 教育プログラム開発・実践に係る予算措置の状況等

#### (1) 普通科系「職業発見・自己開発」「起業・事業承継研究」プログラム開発

- ・予算措置校：普通科高校4校（モデル校）
- ・開発チーム：校内教職員、外部委員（有識者1名、産業界1名）、職業教育推進コーディネーター（1名）
- ・開発検討会：外部委員2名×3回分（報償費@6,500円、旅費@1,320円）
- ・授業等実践：外部講師6名（①農業、②工業、③商業、④家庭・福祉、⑤起業、⑥事業承継の6分野）（報償費@6,500円、旅費@1,320円）

#### (2) 職業科系「革新技術実践」「異業種理解」プログラム開発

##### (i) 革新技術実践プログラム

- ・予算措置校：工業系高校6校（甲府工業、韮崎工業、峡南、都留興譲館、

富士北稜、城西)

- ・ 課題研究等：アドバイザー 1 人 × 4 回（報償費@6,500円、旅費@1,320円）

#### (ii) 異業種理解プログラム

- ・ 予算措置校：5 系列（普通科系、農業系、工業系（建設含む）、商業系、家庭・福祉系）高校
- ・ 授業等実践：外部講師 4 人（4 系列） × 1 回（報償費@6,500円、旅費@1,320円）

### 3 教育課程上の位置づけ

- ・ 各教科に属する科目、総合的な探究の時間、特別活動（HR 活動、生徒会活動、学校行事）や課外活動の一部等への組み入れ等により実施する。
- ・ 一部の学年、学科、コース等においての実施も可とする。

### 4 職業教育推進コーディネーターの配置

- ・ 山梨県教育庁高校改革・特別支援教育課内に配置（再任用教員 1 名）し、開発実践校での職業教育プログラムの開発チームに加わり支援等を行う。

○役割等（想定）

①職業教育プログラムの開発や実践の際の高校への協力支援

②職業教育プログラムの開発に必要な企業・大学等との調整

- ・ 協力依頼、実践にあたっての外部人材の招聘等

③企業と学校の円滑な連携

- ・ 企業のニーズ把握、広報、企業・関係機関との連絡調整、助言、協力企業・機関の勧誘など

# 令和3年度 高等学校職業教育ビジョン推進事業

学校の課題	普通科	職業体験が少ない	総合学科	学んだ知識の応用力育成	職業科	即戦力となる技術力育成	職業教育の再考	社会の課題	コロナ禍における社会変革
	県内企業認知度低い	インターンシップのマッチング	産業構造の変化	後継者不足					
目標	社会で生き抜く力の養成						産業人材の輩出	職業教育の再考	社会の課題
目標	産業人材の輩出								

## 山梨県立高等学校における職業教育の方針（令和2年度策定） 各学科の重点

<b>普通科</b> ・職業観の育成 ・生徒の主体性と目的意識醸成 など	<b>総合学科</b> ・山梨で働く魅力の周知 ・探求活動の外部人材の活用 など	<b>農業・林業</b> ・六次産業化を意識した教育課程編成 ・内外への魅力発信 など	<b>工業</b> ・即戦力となる最新技術の習得 ・応用力の養成 など	<b>商業</b> ・実践力の育成 ・新たなサービスの創造 ・起業意識の醸成 など
--	--	---	---	--

新時代に必要な職業観の育成

### 『産業人材育成プロジェクト』 ～スピード感あるプログラムの開発・実践～

即戦力となる実践力の養成

**普通科系（総合学科）**

○学校で開発・実践  
○コーディネーター配置  
○外部人材と協働開発

①**職業発見・自己開発**プログラム  
 ・社会変革期を生きる多分野の職業を学び、適性や可能性の発見に繋げ、職業選択の幅を広げる。  
 例：協力企業にVR等で疑似インターン体験、企業の広報戦略体験等

②**起業・事業承継研究**プログラム  
 ・産業構造の変化の中で、担い手不足の伝統産業の継承や新分野進出へのチャレンジ意欲を喚起する。  
 例：Y-NEXT参加、起業・社内ベンチャー事例研究、「起業家教育カリキュラム」実践等

※①と②でモデル校4校

★県内企業や業種の魅力を発見  
★進路（職業）選択能力育成  
★職業理解や県内U・Iターン就職

産業労働部等  
関係部局

コーディネーター

教育委員会

企業・大学等

**職業科系（総合学科）**

①**革新技術実践**プログラム  
 ・大学や企業と連携した課題研究  
 ・学んだ知識の新分野への応用力育成を図る。  
 例：機械系生徒が5Gを学び、生産工程におけるデータ処理・遠隔操作の活用（DX）を探る。

②**異業種理解**プログラム  
 ・学科横断型の実践学習  
 ・専門以外の学習で新たな着想に繋げる。  
 例：商業系生徒が「VR」の技術を学び、販売における宣伝力向上に役立てる。

※①上限6校 ②上限20プログラム

★革新技術の実践力  
★異業種への理解  
★六次産業化などへの対応力

## 職業発見・自己開発プログラムの実施イメージ

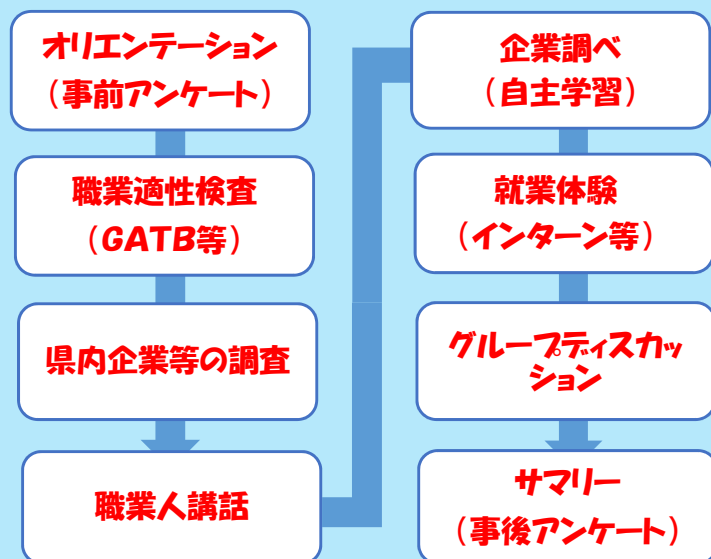
### 1 現状・課題

多くの生徒が県外大学への進学希望者で、県内企業の認知度が低く、目的が曖昧なまま県外進学を希望する者が多い。

### 2 目標（成果指標）

県内企業等で働く魅力を知り、Uターン就職含め職業選択の幅を拡げる（県内企業認知度：10%⇒30%、インターン参加率：20%⇒40%）

### 3 プログラムの実施イメージ（例）



## 起業・事業承継研究プログラムの実施イメージ

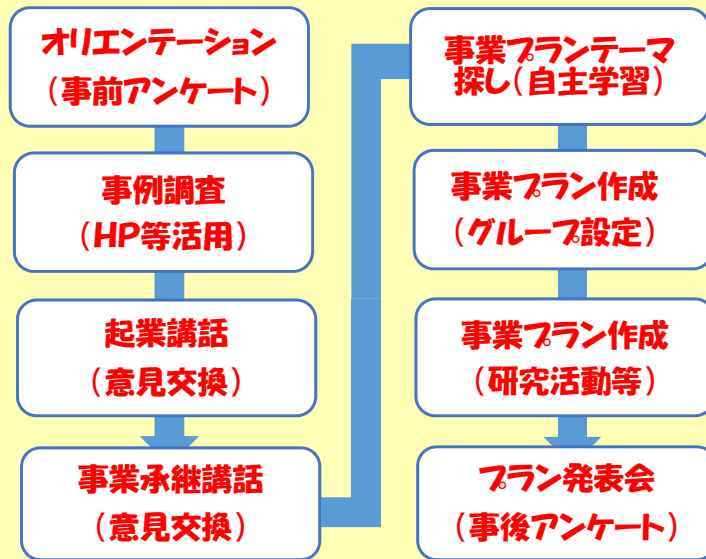
### 1 現状・課題

県外の大手企業等への就職を考えている生徒が多く、起業や事業承継の社会的ニーズや実践例、方法等を学ぶ機会が少ない。

### 2 目標（成果指標）

担い手不足の地域産業の継承や新分野進出等へのチャレンジ意欲を喚起する（伝統産業でのチャレンジ意識：5% ⇒ 10%、新分野進出へのチャレンジ意識：10% ⇒ 20%）

### 3 プログラムの実施イメージ（例）



# 職業教育ビジョンシート（職業発見・自己開発プログラム）（記載例）

高等学校名：□□□□高等学校

普通科系

現 状	約7～8割の生徒が県外の大学への進学希望者で、職業教育への関心は少ない。
課 題	県内企業の認知度が低く、目的が曖昧なまま県外進学を希望する者が多い。
目 標	県内企業等で働く魅力を知り、Uターン就職含めて、職業選択の幅を広げる。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内企業認知度：10% ⇒ 30%</li> <li>・ インターン参加率：20% ⇒ 40%</li> </ul>

会議種別	回・時間	日 時	会議・検討内容	参加者・外部委員・講師等
検 討 会	第1回	4月上旬	全体打合せ (方向性・内容等検討)	〇〇企業、△△大学、コー ディネーター等参集
	第2回	4月下旬	校内WG (方向性・内容等検討)	教職員関係者のみ
	第3回	5月上旬	全体打合せ (方向性・内容等決定)	〇〇企業、△△大学、コー ディネーター等参集
	第4回	5月下旬	校内WG (実施準備、再検討)	教職員関係者のみ
	第5回	10月上旬	全体振り返り (総括・改善点検討等)	〇〇企業、△△大学、コー ディネーター等参集
授 業 実 践	1 時限目	6月4日	オリエンテーション (職業適性検査、事前アンケート)	※可能な範囲で、職業適性検査 GATB(生徒負担)を実施
	2 時限目	6月18日	県内企業等の調査 (新卒者就職応援企業ナビ等活用)	
	3 時限目	7月2日	職業人講話① (グループに別れて意見交換)	外部講師(農業、工業、商 業、家庭・福祉)
	4 時限目	7月16日	職業人講話② (グループに別れて意見交換)	外部講師(農業、工業、商 業、家庭・福祉)
		夏期休暇中	各自でテーマ設定。企業調べ し、インターン先等を探る。	(職場見学含む)等に挑戦
	5 時限目	8月27日	就業体験等(VR含む)準備 (協力企業へのインターン等)	
	6 時限目	9月10日	就業体験等(VR含む) (協力企業へのインターン等)	
	7 時限目	9月24日	グループディスカッション (インターン等の振り返り)	
8 時限目	10月1日	サマリー (事後アンケート等実施)		

# 職業教育ビジョンシート（起業・事業承継研究プログラム）（記載例）

高等学校名：□□□□高等学校

普通科系

現 状	県外の大手企業等への就職を考えている生徒が多く、起業等への関心は少ない。
課 題	起業や事業承継の社会的ニーズや実践例、方法等を学ぶ機会が少ない。
目 標	担い手不足の地域産業の継承や新分野進出等へのチャレンジ意欲を喚起する。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足の伝統産業や地域産業でのチャレンジ意識：5% ⇒ 10%</li> <li>・新分野進出（社内ベンチャー含む）のチャレンジ意識：10% ⇒ 20%</li> </ul>

会議種別	回・時間	日 時	会議・検討内容	参加者・外部委員・講師等	
検 討 会	第 1 回	4 月上旬	全体打合せ (プログラム内容等検討)	〇〇企業、△△大学、コー ディネーター等参集	
	第 2 回	4 月下旬	校内WG (方向性・内容等検討)	教職員関係者のみ	
	第 3 回	5 月上旬	全体打合せ (方向性・内容等決定)	〇〇企業、△△大学、コー ディネーター等参集	
	第 4 回	5 月下旬	校内WG (実施準備、再検討)	教職員関係者のみ	
	第 5 回	10月上旬	全体振り返り (総括・改善点検討等)	〇〇企業、△△大学、コー ディネーター等参集	
授 業 実 践	1 時限目	6月4日	オリエンテーション (事前アンケート等実施)		
	2 時限目	6月18日	起業・事業承継等の事例調査 (産業支援機構HP等の活用)		
	3 時限目	7月2日	起業講話 (グループに別れて意見交換)	外部講師（起業経験者）	
	4 時限目	7月16日	事業承継講話 (グループに別れて意見交換)	外部講師（事業承継経験者）	
	夏期休暇中		Y-NEXTへの参加を見据え、各自で事業プランのテーマ探 しを実施。社会課題等に目を向け、資料収集等に挑戦。		
	5 時限目	8月27日	事業プラン作成① (グループに別れてテーマ設定)	外部講師	
	6 時限目	9月10日	事業プラン作成② (プラン検討、研究活動)	外部講師	
	7 時限目	9月24日	事業プラン作成③ (プラン検討、発表資料作成)	外部講師	
8 時限目	10月1日	プラン発表会（優秀プランをY- NEXTへ、アンケート等実施）	外部講師、外部委員、コー ディネーター等参観		

## 革新技术実践プログラムの実施イメージ

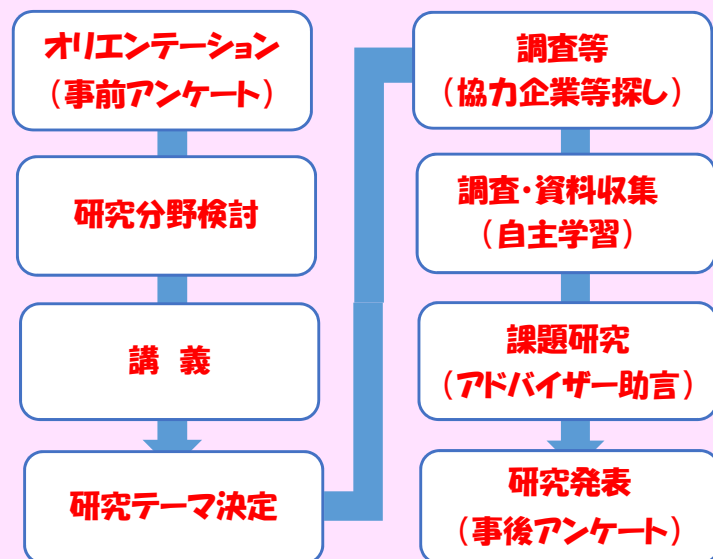
### 1 現状・課題

先端技術に触れる機会が少なく、当該技術を活用した課題研究等も少ないため、学習知識の新分野への応用力を養いにくい。

### 2 目標（成果指標）

先端技術に触れる機会を増やし、学習知識の新分野への応用・実践力を養成する（先端技術に係る課題研究の取組事例：3件⇒10件）

### 3 プログラムの実施イメージ（例）



## 異業種理解プログラムの実施イメージ

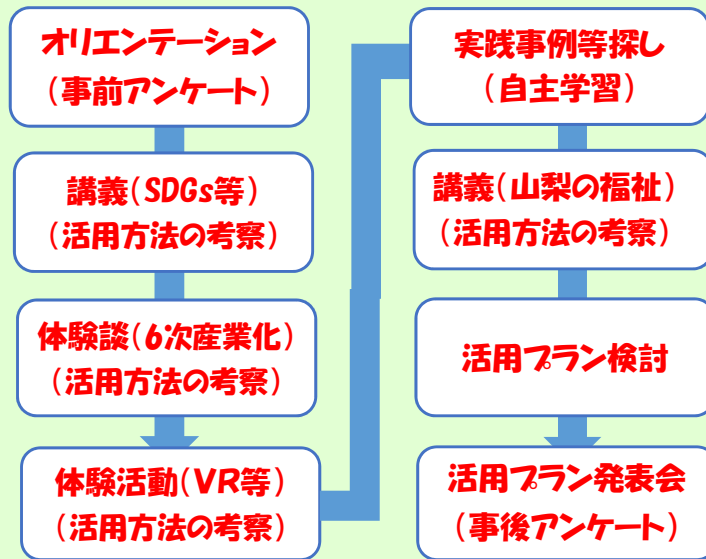
### 1 現状・課題

学科横断型学習等はほとんど行われておらず、専門以外の知識等や経営者としての幅広い視野・見識が不足している。

### 2 目標（成果指標）

各系列（農業・工業・商業・家庭福祉等）を跨いで学科横断型学習を実施する（異業種学習結果を活用したプランの考案：3件⇒10件）

### 3 プログラムの実施イメージ（例）



# 職業教育ビジョンシート（革新技術実践プログラム）（記載例）

高等学校名：□□□□高等学校

職業科系

現 状	5GやDX等の先端技術を活用した課題研究等はほとんど行われていない。
課 題	革新技術に触れる機会が少なく、学習知識の新分野への応用力を養いにくい。
目 標	先端技術に触れる機会を増やし、学習知識の新分野への応用・実践力を養成する。
成果指標	・先端技術に係る課題研究の取組事例：3件 ⇒ 10件 （うち5G・DX・SDGs・VRに関連した課題研究の割合：10% ⇒ 20%）

会議種別	回・時間	日 時	会議・検討内容	参加者・外部委員・講師等	
校内検討	第1回	4月上旬	校内打合せ （課題研究の講師探し等）	コーディネーター等参集	
	第2回	4月下旬	校内打合せ （課題研究の講師調整等）	教職員関係者のみ	
	第3回	10月下旬	校内打合せ （総括・改善点検討等）	コーディネーター等参集	
授業実践	1時限目	5月7日	オリエンテーション （事前アンケート等実施）		
	2時限目	5月21日	課題研究分野検討	研究アドバイザー	
	3時限目	6月4日	講 義	研究アドバイザー、コーディネーター	
	4時限目	6月18日	課題研究テーマ決定		
	5時限目	7月2日	調査等① （協力企業・大学探し等含む）		
	6時限目	7月16日	調査等② （協力企業・大学探し等含む）		
	夏期休暇中		課題研究に係る調査等を深め、資料収集等に挑戦。		
	7時限目	8月27日	課題研究①（助言）	研究アドバイザー、コーディネーター	
	8時限目	9月10日	課題研究②		
	9時限目	9月24日	課題研究③（助言）	研究アドバイザー、コーディネーター	
	10時限目	10月1日	課題研究④		
11時限目	10月15日	まとめ・課題研究発表 （事後アンケート等実施）	研究アドバイザー、コーディネーター等参観		



# 職業教育ビジョンシート（異業種理解プログラム）（記載例）

高等学校名：□□□□高等学校

職業科系

現 状	複数の学科等を跨いだ横断型学習等は、ほとんど行われていない。
課 題	専門以外の知識等に乏しく、経営者としての幅広い視野や見識が不足している。
目 標	各系列（農業・工業・商業・家庭福祉等）を跨いで学科横断型学習を実施する。
成果指標	・異業種学習結果を活用したプランの考案：3件 ⇒ 10件

会議種別	回・時間	日 時	会議・検討内容	参加者・外部委員・講師等	
校内検討	第1回	4月上旬	校内打合せ (講師探し等)	コーディネーター等参集	
	第2回	4月下旬	校内打合せ (講師調整等)	教職員関係者のみ	
	第3回	10月下旬	校内打合せ (総括・改善点検討等)	コーディネーター等参集	
授業実践	1時限目	5月7日	オリエンテーション (事前アンケート等実施)		
	2時限目	5月21日	①講義 (SDGs)	外部講師、コーディネーター	
	3時限目	6月4日	①専門での活用方法の考察		
	4時限目	6月18日	②体験談 (6次産業化)	外部講師、コーディネーター	
	5時限目	7月2日	②専門での活用方法の考察		
	6時限目	7月16日	③体験活動 (5G・VR等)	外部講師、コーディネーター	
	夏期休暇中		企業や大学等で、学習内容の具体的な実践事例等について自主学習。		
	7時限目	8月27日	④講義 (山梨の福祉)	外部講師、コーディネーター	
	8時限目	9月10日	④専門での活用方法の考察		
	9時限目	9月24日	活用プランの検討		
	10時限目	10月1日	活用プランの検討		
11時限目	10月15日	まとめ・活用プラン発表 (事後アンケート等実施)	コーディネーター等参観		